

今月は、私たちの生活になくはない「日・火・灯」について特集を組みました。子どもたちの遊びの中にも、かげふみ、花火、たき火など、楽しい「日」や「火」はたくさんあります。

たき火というと、娘の保育園時代を思い出します。娘の通っていた保育園は、都内とはいえ、周囲を畑に囲まれた田園地域の小高い丘の上にあります。

毎年春になると、すぐ近くに借りている区民農園にさつま芋の苗を植え、夏の間、子どもたちと先生が手入れをし、秋になると、全員で畑に出かけ収穫します。掘ったお芋は、お天気の良い日にお日様に干し、保存されます。

そして、十月末頃から、落ち葉の季節になると、園長先生が、たき火を始めます。はじめは、園長先生一人で、庭のそうじを兼ねて落ち葉を集めて、火をつけて……のんびりと、ついでに不用の書類なども燃やしながらのたき火です。

そのうち、火の具合がちょうどよく

なってくると、子どもたちも集まってきたり、やき芋が始まります。

最初の年には、お芋をそのまま火の中に入れてしまい、外側は真っ黒で、中はなま焼けという失敗もありましたが、年を重ねるうちに、アルミ箔をまいたり、早く焼けるように小さく切ったり、工夫され、おいしいやき芋ができるようになりました。

保育園のまわりには、桜や樺の木がたくさんあり、落ち葉には不自由しない環境でした。

何日かして落ち葉がたまると、子どもたちはリヤカーで集めて運び、何回もたき火ややき芋屋さんごっこを楽しんだものでした。

都会に生活する私たち大人には、戸外で火を燃やすという楽しみは日常から消えつつあります。自然を楽しみ、季節を味わうたき火という小さな楽しみも、幼稚園や学校という、季節感ある生活の中でしか味わえなくなるのでしょうか。

幼児の教育

第八十九巻 第十一号
(一九九〇年十一月号)

定価四一〇円(本体三九八円)

平成二年十一月一日 発行

編集兼発行人 本田和子

発行所 日本幼稚園協会

東京都文京区大塚二一一一

印刷所 お茶の水女子大学附属幼稚園内

図書印刷株式会社

東京都港区三田五一一二一一

発売所 株式会社フレールベル館

東京都千代田区神田小川町三一

振替口座 東京九一一九六四〇

電話 〇三一二九二七七八一

●本誌購読のご注文は、発売所フレールベル館にお願いいたします。

●万一、落丁・乱丁などがございましたら、おとりかえいたします。